

平成28年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

二戸市カーリング施設民間資金等活用事業導入可能性調査 (調査対象箇所：二戸市内)

【調査主体】二戸市

調査対象事業の概要／施設の概要

二戸市は、岩手県におけるカーリングの発祥の地であり、1996年より岩手県北青少年の家スケート場をホームリンクとして県や市の支援を受けながら、協会内部の体制整備と競技力向上を図ってきた。

2014年のソチオリンピックカーリング日本代表の苫米地美智子選手は、二戸市から単身北海道にわたり、「北海道銀行フォルティウス」に所属しオリンピックの舞台に立つまでに成長した。この快挙は本人の努力はもとより、カーリング専用リンクである練習環境があったからこそといわれている。

他競技との共用リンクでは、時間とともに氷が微妙に変化することから、巧みな作戦や緻密な情報交換、氷の変化を読むなどの練習ができないことなどから、市内へのカーリング専用施設の建設が望まれているところである。また、将来のオリンピックを目指す市内のジュニア競技者育成や、全国のカーリング競技者が二戸市のカーリング専用リンクへ通うことによる交流人口の拡大の観点からも設置が切望されてきた。

また、市としても平成28年度からの第2次二戸市総合計画の中で設置計画がある。

検討経緯等

第2次二戸市総合計画前期基本計画アクションプランの中では、平成28年度からの5年間の間で市内にカーリング場を新設するという計画があるが、平成28年度はカーリング協会との意見交換を行ったのみで、具体的な検討は行われていない。

しかしながら、カーリングを通じた地域内外との交流促進を施設整備の核として検討した場合、宿泊施設や飲食施設などの民間施設を併設することが望ましい姿であると考えられる。

事業化に向けて解決すべき課題及び検討すべき内容

【事業化に向けて解決すべき課題】

二戸市では上記のとおり、カーリング施設の整備を目指しているが、複合させる施設（宿泊施設、飲食施設、商業施設等）、他の公共施設との連携（体育施設や公民館等）によって、民間の資金、経営的・技術的ノウハウを積極的に活用し、整備・運営が可能であるか導入可能性調査を実施し、独立採算が可能な施設の整備・施設運営を目指している。

上記状況を踏まえ解決すべき課題は以下のとおり。

- ・建設候補地、併設するにあたっての最適用途の検証等をふまえた事業計画、基本構想の策定
- ・どの場所にどのような施設を建設することが、民間事業者の採算性及び参画可能性の検証
- ・民間ノウハウが最大限に発揮される事業スキームの策定

【上記のような課題に対し、以下のような検討を行う予定】

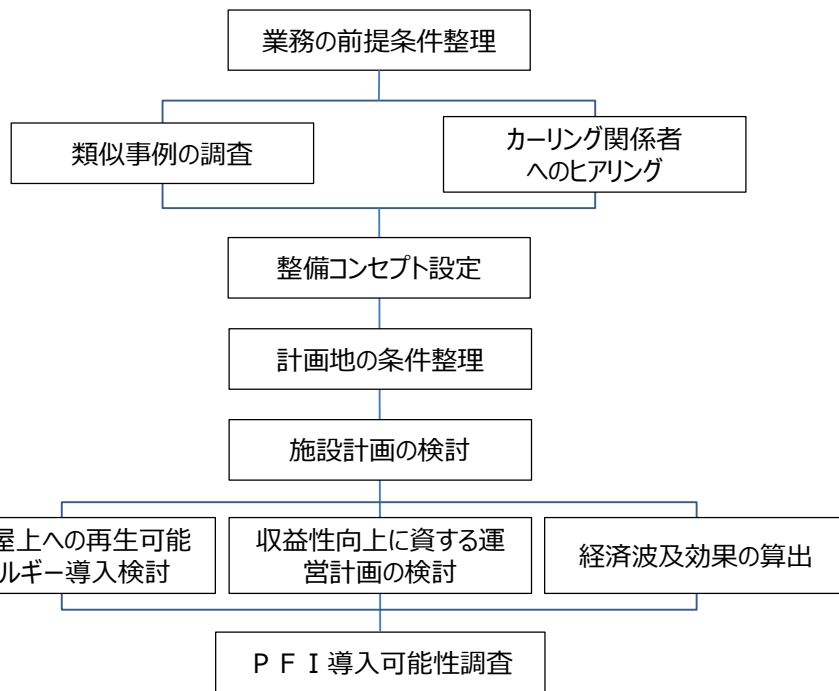
- ・民間企業の意向調査
- ・事業構想案の策定
- ・事業スキームの検討
- ・運営権対価・VFMの算定

平成28年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

二戸市カーリング施設民間資金等活用事業導入可能性調査 (調査対象箇所：二戸市内)

【調査主体】二戸市

調査の流れ／調査内容



今後の進め方

- ・2018年 5月 導入可能性調査結果を議会へ報告
 - ・ 9月～ マスタープラン策定
 - ・2019年 事業化に向けた調整・意思決定
 - ・2020年 PPPによる事業化開始
 - ・2022年 カーリング施設オープン
- ※2018年以降の進め方は、議会・庁内検討において了承を得られることが前提である

事業化検討

①検討した事業手法

	従来型発注	DB+O	PFI	
			BTM+O	運営者先行選定型BTO
資金調達	官	官	民 (SPC)	民 (SPC) + 運営組織
設計		設計・建設		
建設		JV		
維持管理	運営組織	運営組織	運営組織	
運営				

②定量評価

従来型発注	DB+O	PFI (BTM+O及び運営者先行選定型BTO)
—	9.0%	0.6%

③その他 (定性評価等)

評価の視点	従来型発注	DB+O	BTM+O	運営者先行選定型BTO
財政の平準化	×	×	○	○
リスク分担	×	△	○	○
民間活用	×	△	△	○
市職員の負担	○	△	×	×
地元企業参画意欲	○	○	△	△

④検討結果

定量・定性双方を踏まえた総合評価としては、VFMが最も出ており、かつ定性面に優れるDB+O方式が最も優れる手法といえる

想定される課題

- ・事業化に向け、議会・庁内での意思決定が整っておらず、導入可能性調査・マスタープランの内容によって承認が得られるかどうか課題である